



本日の内容

1. 防災情報のレベル化
 2. 地域防災力の重要性
 3. 地域の防災課題
 4. マイ・タイムラインなど
- 取組み事例の紹介

1. 防災情報レベル化(内容)

警戒 レベル	防災情報	住民の行動
5	災害の発生	命を守る最善の行動
4	避難勧告・指示	避難 実施 
3	避難準備の情報	高齢者など避難 
2	注意報	避難 備え確認 
1	数日以内に警戒級の可能性	心構え

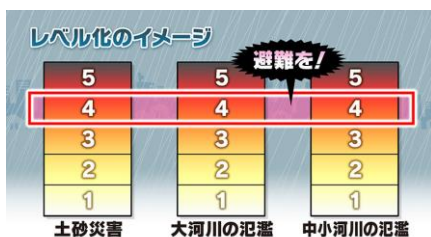
警戒レベルの低い方から

- ▼レベル1は、数日以内に大雨が予想される時
- ▼レベル2は、注意の呼びかけ
- ▼レベル3は「避難準備の情報」で、高齢者などは避難を開始する
- ▼レベル4は「避難勧告」や「避難指示」で、速やかに避難所に移動する、直ちに命を守る行動をとる
- ▼レベル5は「災害の発生」で、命を守る最善の行動をする

1. 防災情報レベル化(狙い)



防災情報は大きな災害を経験するたびに増えてきました。



規格(物差し)を統一



防災情報をあらためて整理してわかりやすく体系化する「土台」を示した、という意味があります。

いま、防災は、第4段階へ

戦後における災害の教訓を踏まえた防災政策の歩みと「防災4.0」

「防災1.0」

1959年（昭和34年）

伊勢湾台風

（大規模な台風による多数の人的・物的被害）



防災に関する統一的な制度・体制の不在

災害対策基本法の制定
・中央防災会議の設置
・防災に関する総合的かつ長期的な計画である防災基本計画の作成

「防災2.0」

1995年（平成7年）

阪神・淡路大震災

（住宅の倒壊やライフラインの寸断、交通システムの麻痺、多数の被災者の発生等の都市型災害による甚大な被害）



政府の危機管理体制の不備、初動対応における課題

官邸における緊急参集チーム設置等の政府の初動体制の整備

耐震化が不十分な建築物の倒壊等による多数の被害
生活再建等を行えない被災者が多数存在

建築物の耐震改修促進法の制定（平成7年）
被災者生活再建支援法の制定（平成10年）

「防災3.0」

2011年（平成23年）

東日本大震災

（わが国の観測史上最大の地震、大津波の発生による甚大かつ広域的な被害）



最大クラスを想定した災害への備え不十分

大規模地震の被害想定・対策の見直し、「減災」の考え方を防災の基本理念として位置付け、想定しうる最大規模の洪水等への対策（水防法改正）、大規模災害時の復興の枠組み整備

自然災害と原子力災害の複合災害への想定が不十分

原子力規制委員会発足等の原子力政策の見直し（平成24年）

「防災4.0」

地球温暖化に伴う気候変動がもたらす災害の激化



多様な主体が参画する契機づくりとなり、国民の一人一人が防災を「自分ごと」ととらえ、自律的に災害に備える社会に向けた新たな防災のフェーズ（「防災4.0」）へ

内閣府「防災4.0」未来構想プロジェクト有識者提言より

平成30年7月豪雨を踏まえた 水害・土砂災害からの避難の在り方について

平成30年7月豪雨を踏まえた
水害・土砂災害からの避難のあり方について
（報告）

平成30年12月
中央防災会議 防災対策実行会議
平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関する
ワーキンググループ

「行政は万能ではなく
ひとりひとりを
助けには行けない」

「皆さんの命は
自身で守ってください」

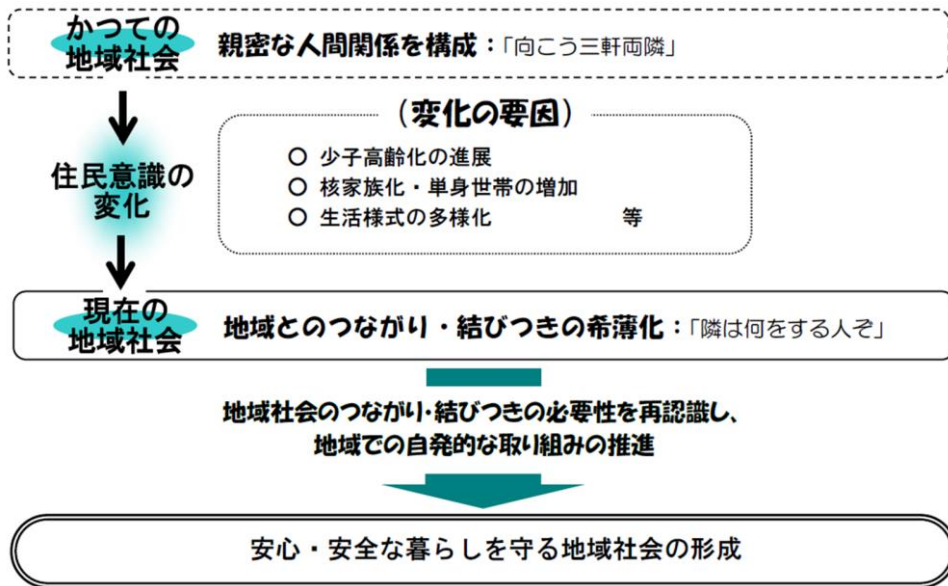
「行政も全力で
サポートします」

平成30年12月

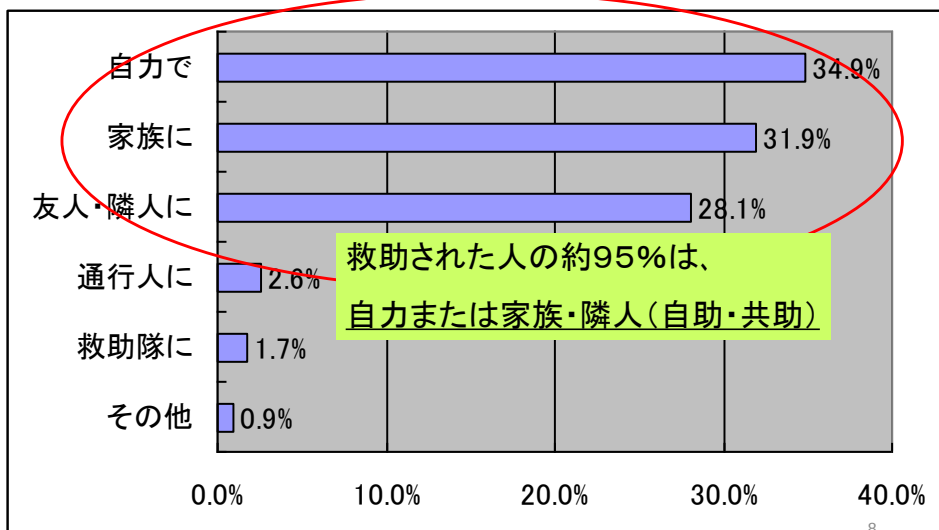
中央防災会議 防災対策実行会議

「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」による発表

希薄になりつつある地域社会の現状と求められる取り組み

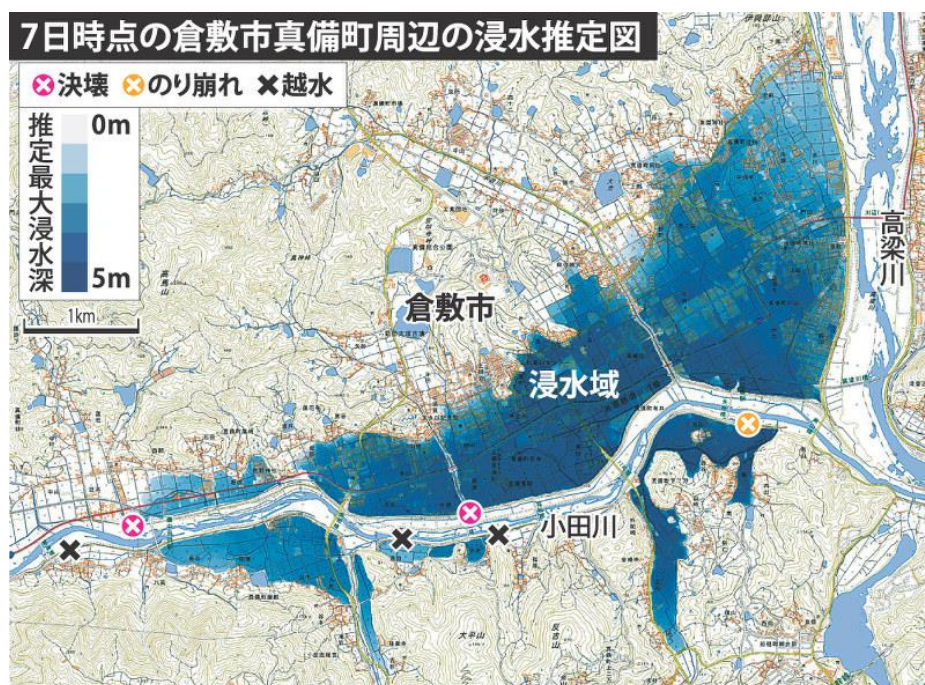


阪神淡路大震災の教訓～救出・救助にあたったのは～ 生き埋めや閉じ込められた際の救助（誰に助けられたか）

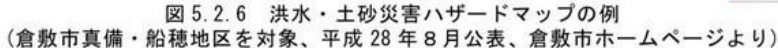


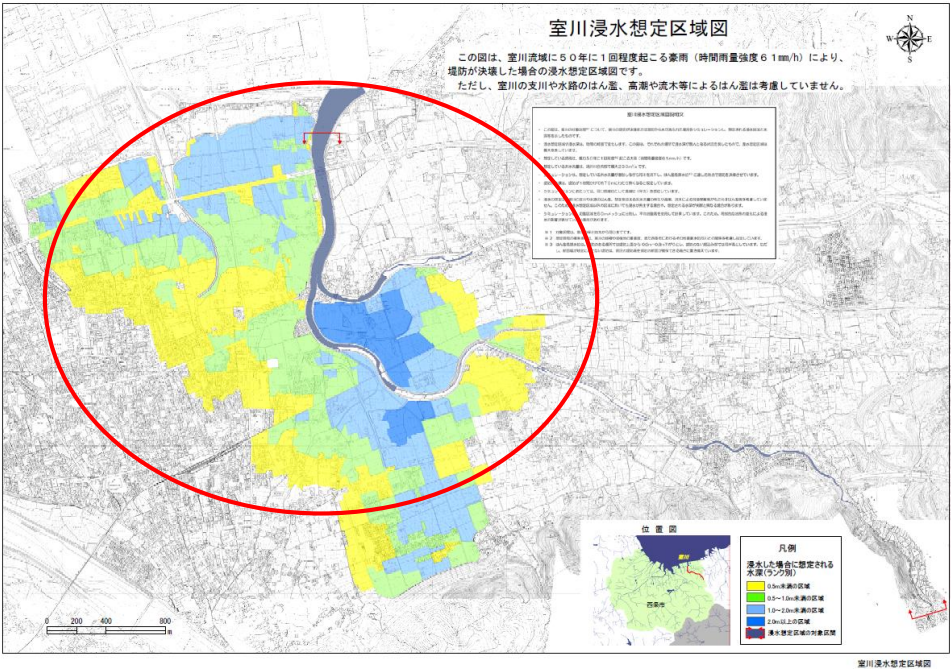
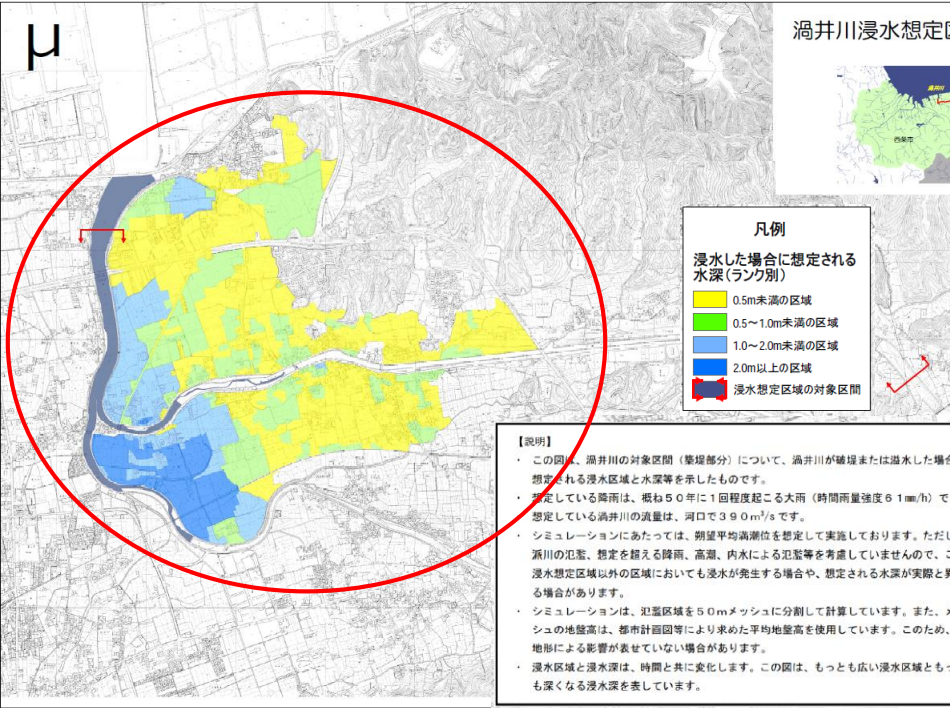
（社）日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

平成30年7月豪雨災害 倉敷市真備町

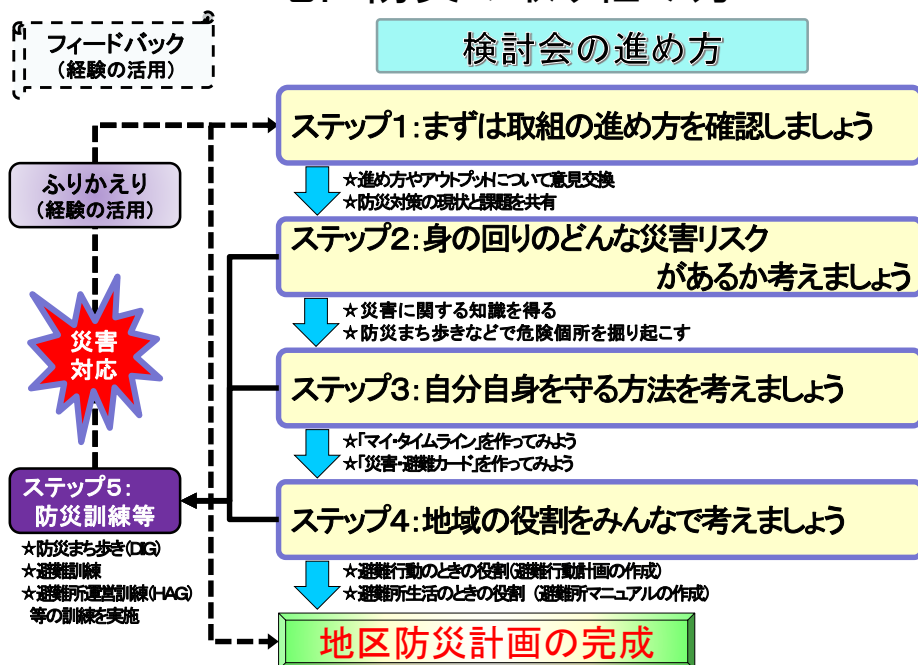


※国土地理院提供の図から作製





地区防災の取り組み方



検討の過程で

☑リスクを認識できる

- ・ 個人ごとの違いを認識できる
- ・ 災害ごとの違いを認識できる

☑防災・減災行動が具体的にわかる

- ・ いつ、どこへ、どこを通過して避難
- ・ 地域での役割
- ・ 事前の準備は、いつ、どのように

☑コミュニケーションの輪が広がる

- ・ 意見交換を通じて知り合いが増える
- ・ ご近所とのつながりが強くなる

※回数を重ねるごと、継続することによって、さまざまな効果が得られます。

災害に強いコミュニティへ！
★マイ・タイムライン
★災害・避難カード
★防災訓練・イベント



状況		準備可能期間	マイ・タイムライン					名前
☒	台風のとき	3～5日						
☐	大雨が長引くとき	2～3日						
☐	ゲリラ豪雨のとき	2～3時間						

警戒レベル

12345

避難情報	自主避難など 注意の呼びかけ	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示 (緊急)	災害 発生 情報
☒ 大雨に関する気象情報 ☐ 風に関する気象情報	大雨・洪水注意報 [大雨が続きとなる3～5時間前]	大雨・洪水注意報 [大雨が続きとなる3～5時間前]	大雨・洪水注意報 [大雨が続きとなる3～5時間前]	暴風警報 [暴風となる3～5時間前]	災害発生 避難する場所 〇〇公民館
▼お住いの地域によって必要となる情報					
☐ 高潮に関する気象情報	高潮注意報	高潮注意報	高潮注意報	高潮警報 [高潮となる3～5時間前]	
☐ 河川の氾濫に関する情報	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位 [避難開始～1時間前]		
☒ 土砂災害に関する気象情報			土砂災害警戒情報 [土砂災害の危険度が著しくなる数分～1時間前]		

※警戒レベルや防災気象情報は必ずしもこの通りの順番で発表されるとは限らず、あくまで目安です。

自分 家族	地域
避難準備開始 ・自宅周辺の片づけ ・積木等、撤去 ・避難経路再確認 避難準備第2段階 ・常備品の確認、補充 ・自治会長へ連絡 避難開始 ・母、妻、子供が避難開始 (避難所まで30分) 避難完了 ・自治会長へ避難が完了したことを報告	避難開始 ・自宅の戸締り確認 ・自分自身が避難開始 (避難所まで30分) 避難所の受付を実施(家) ・受入れ準備を支援(子供) ・情報伝の業務(自分)

準備にかかる時間を
事前にとっておく

※自分が必要だと思うことをできるだけ多く書いて
おくと、いざという時に役立ちます。

危険地域の見回り
・近所への声掛け

〇〇さん、◆◆さん
の避難誘導支援

自分の避難に影響が出
ない範囲で実施する

共助の役割を記入

災害・避難カードを活用した防災

7月豪雨のとき、大洲市三善地区は、浸水したが、人的被害ゼロでした。

- 自然災害による被害の軽減のためには、
住民自身による適時適切な避難がきわめて重要！

- 避難すべき場所などをあらかじめ認識しておくための
仕組みとして「災害・避難カード」を作成する！



これらの情報を、水害・土砂災害等 災害種別毎に整理



地域の特性に合わせたカードを作成

名刺タイプ(携帯可能なサイズ)の災害・避難カード

大洲市 三善地区「災害・避難カード」オモテ 1人1枚			
点線をはきみて切って使用しましょう。(6人分)			
「災害・避難カード」—わたしの情報		「災害・避難カード」—わたしの情報	
名前	血液型	名前	血液型
性別		性別	
生年月日		生年月日	
住所		住所	
電話番号		電話番号	
留意事項	持病、飲んでいる薬など	留意事項	持病、飲んでいる薬など
避難時は、このカードを持って行く！		避難時は、このカードを持って行く！	
大洲市 三善地区「災害・避難カード」ウラ 1人1枚			
点線をはきみて切って使用しましょう。(6人分)			
家族(頼りになる人)の緊急連絡先		家族(頼りになる人)の緊急連絡先	
氏名	連絡先(職場、携帯など)	氏名	連絡先(職場、携帯など)
電話が つながないときは、171 (災害用伝言ダイヤル)		電話が つながないときは、171 (災害用伝言ダイヤル)	
自分の居場所を伝える 録音「1」	家族の居場所を伝える 再生「2」	自分の居場所を伝える 録音「1」	家族の居場所を伝える 再生「2」

- ～主な記載内容～
- 【左のカード】
 - ・氏名
 - ・住所
 - ・生年月日
 - ・血液型
 - 【右のカード】
 - ・頼りになる人の緊急連絡先
 - ・災害伝言ダイヤルの使い方
- ※
避難場所等は、別途作成しているマップに記している。



- 赤い紐で首からかける「災害・避難カード」
普段は室内の目立つ場所に掛けておき、災害のおそれがある際は、首からかけて避難する

稻城市

防災・減災について、行政との連携



自主防災

×依存しない
☞押し付けない×



実行の主体

- ◆防災説明会の開催
- ◆防災訓練や防災イベントの企画・実施
- ◆防災に関する計画の作成

建設的な議論
ができる
フラットな関係

- ◇資料の提供やアドバイス
- ◇訓練・イベントの支援
- ◇新しい情報の提供
- ◇新しい取り組みへの依頼

自分たちの命は、自分たちで守る



7月豪雨災害のとき、自分たちで作った地区防災計画により難を逃れた大洲市三善地区や松山市高浜地区のように災害に強い地区づくりをめざしましょう！